

米PCE物価指数、前年比での伸び鈍化

ポイント① 伸びは鈍化も、インフレ圧力続く

5月27日に発表された4月の米PCE（個人消費支出）物価指数は、前年同月比で6.3%の上昇となり、約1年半ぶりに伸びが鈍化しました。また、変動の大きいエネルギーと食品を除くコア指数についても、前年同月比で4.9%の上昇と、3月の5.2%から伸びが鈍化しました。ただ、同指数の伸び率鈍化は、歴史的な高インフレの終焉を示唆するものではなく、物価上昇が約1年ほど前から始まり、前年比の伸び率が以前より小さくなりやすくなったことが主要因と考えられ、足元では供給制約などの根強いインフレ圧力が依然として残っています。

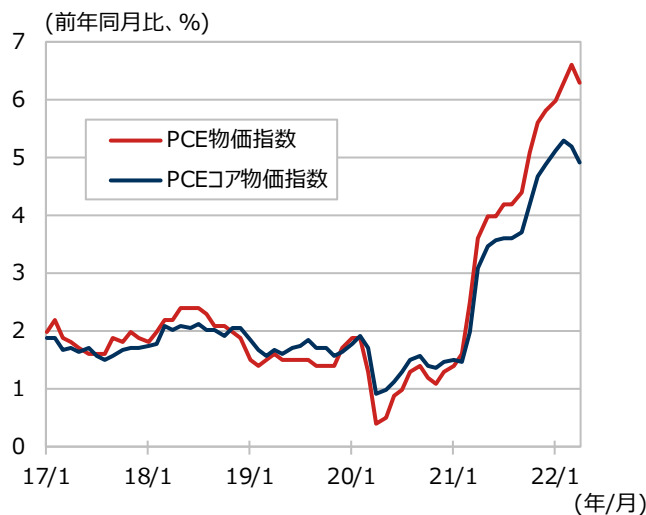
ポイント② 個人消費支出は前月比で上昇

同状況下、4月の米個人消費支出は、前月比で0.9%上昇しました。新型コロナの脅威が落ち着きを見せ始めたことで、外食や旅行などのサービス支出が堅調となったほか、4月は自動車の購入も目立っており、力強い賃金の伸びが個人消費の支えとなっているようです。一方で、同月の個人貯蓄率は4.4%と、2008年9月以来の低水準を記録しており、一部の世帯では物価高に対応すべく、貯蓄を取り崩して支出に回していることが想定されます。現在もなお、ガソリン・食品などの生活必需品の値上がりが続いていることなどを踏まえると、今後は個人消費が停滞する可能性も拭いきれないとみています。

ポイント③ 市場は統計を好感し、株高進む

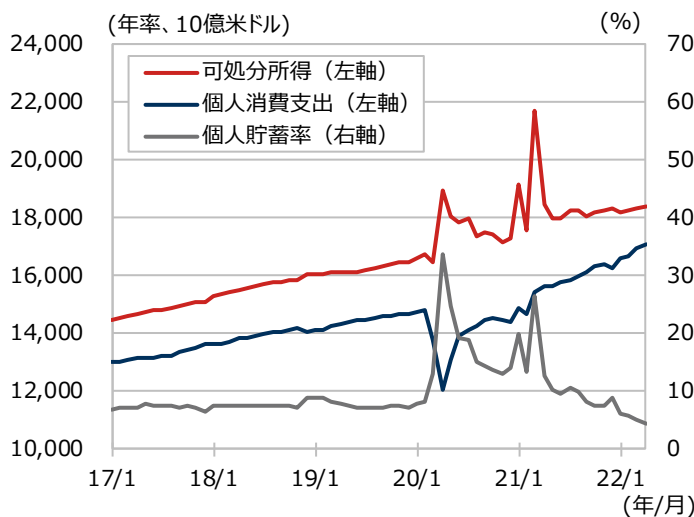
市場の反応としては、インフレの鈍化・堅調な個人消費を示した本統計を受けて、「FRB（米連邦準備制度理事会）が景気を後退させることなく、金融引き締めを行なうことが可能」との見方が広がり、米国株を中心にリスク資産が堅調に推移しました。

米PCE物価指数の推移



期間：2017年1月～2022年4月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米個人可処分所得・消費支出・貯蓄率の推移



期間：2017年1月～2022年4月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 6月1日 米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数（5月）
- 6月3日 米雇用統計（5月）